

開かれた学校づくり

教頭 林 昭男

◎学校評議員会

生徒諸君や保護者の皆さま、地域の方々等の期待に応えられる開かれた学校とするため、地域の代表者や有識者の方々から本校の教育活動について幅広く御提言や御助言をいただく「学校評議員会」を組織し、毎年「回開催しています。今年度の第一回は、七月十七日（水）に開かれました。

今年度の学校評議員の方々を紹介させていただきます。（委員名は五十音順）

大野 正博 様（学識経験者）

鈴木 英二 様（関係機関等代表）

棚橋 雄二 様（企業関係者）

永田 洋 様（地域住民代表）

福田 尚巳 様（地域住民代表）

なお第一回学校評議員会の内容は本校ホームページにて公開していますので、是非ご覧ください。

◎学校アンケート

岐阜県立の学校が毎年実施しております「生徒・保護者対象学校アンケート」を、今年も七月に実施しました。御協力ありがとうございました。

質問項目に対して「あてはまる」（A＋B）という回答が多かった項目と、「あてはまらない」（C＋D）という回答が多かった項目を抜粋して下表に示しましたのでご覧ください。

保護者アンケートにおきましては、「一斉配信メールサービスは有効に活用されている」や教職員の対応、地震や

台風時の対応マニュアルについてなどの項目で高い評価をいただきました。生徒アンケートでは、「体罰がない」、「学校行事が充実している」等の項目が評価されていました。

今年度は昨年度と一部の項目を変更しましたが、同内容の項目につきましては昨年度と同様の評価傾向となっていました。その中で気になる回答を一部挙げますと、「本校からの連絡文書等は保護者に届けている」と八十三パーセントの生徒が回答していることに対し、「学校からの連絡文書等は、保護者に確実に届けられている」という保護者の回答は六十二パーセントとなつていて、生徒アンケートの「C＋D」の多い項目は、昨年度よりその割合がやや増加していることなどです。

なお、今年度は保護者アンケートの中に「学校の教職員は、働き方改革に努めている」という項目を含めましたが、これについては「わからない」が四十二パーセントを占めていました。今後は、ホームページやメール配信をさらに活用し、学校からの連絡がより確実に保護者の皆さまに届くようにすること、教職員が学校改善、学習環境の改善に向けて一層努力していくことと合わせて「目に見えぬ働き方改革の推進」を図っていく所存ですので、皆さまのご理解と御支援、御協力をお願いいたします。



PTAだより

第128号

令和元年12月13日

編集発行

岐阜県立各務原高等学校
PTA



PTA活動を通じて



PTA会長
園部 泰敏

平素は学校行事、PTA活動にご理解、ご協力賜りまことにありがとうございます。今年度の折り返しも過ぎ、PTA活動としてはほとんどの行事が終わりしました。ただ今年度の各務原高校PTAは、東海大会での発表、岐阜県での発表、岐阜地区の代表校といった大きな役に当たり、学校行事以外の活動もあり本当に忙しかつたという間に過ぎていきました。これもひとえにPTA役員、先生方の協力があったからこそ、無事大きな役を終えることができたと思います。本当にありがとうございます。東海地区、また岐阜県の高校PTAの方々に各務原高校のことを、より多く知っていただけたと感じています。ここに各務原高校のPTA活動を振り返ってみたいと思います。

① 挨拶運動

他高校では、先生、PTA役員、生徒会の生徒がみんなで校門に立ちあいさつ運動を行うことは、少ないと思います。これも各務原高校の伝統の一つではないかと思えます。皆さん、苦勞様でした。

② 校外研修

今年は、南山大学、名城大学の見学に行きました。どちらの大学も素晴らしい。私も、もう一度大学生に戻りたいと思つた。教育環境が整っていました。特に南山大学では、わが校の卒業生が体験談を話してくれたのが本当に嬉しかったです。

たです。今後も、そうしていただけたと嬉しいです。

③ 新生祭のカレーバザー

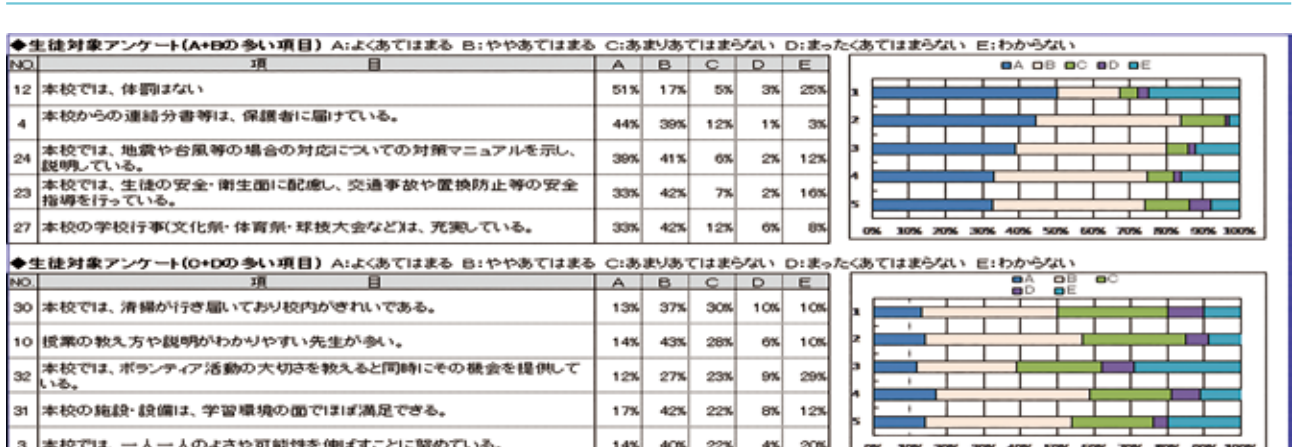
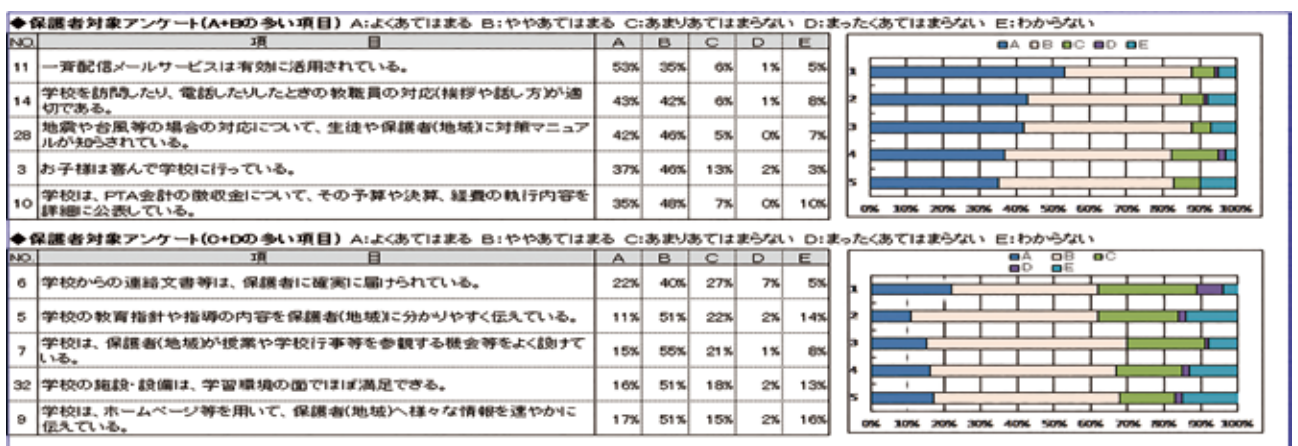
をかけた頭を使ってどうしたらスムーズに皆さんにカレーを食べていただけるか、カレー、ごはんの量は大丈夫かなどを考へながら、集中して行いました。そのおかげで、役員全員が仲良くなり、その後のPTA活動がスムーズになりました。運動会は、最高の天気の中、二つの団が競技に応援に素晴らしかったです。生徒達の終わった後の笑顔と涙が最高でした。是非とも一年、二年生の保護者の方に伝えたいです。来年はぜひ見てください。メイクドラマを。

④ PTA講演会

岐阜協立大学の髙橋先生の熱い講演が良かったです。日本中がラグビーに盛り上がったのは記憶にあたらしいのですが、その中でもノーサイド、試合が終わったら相手をたたえあふスポーツマンシップが印象に残りました。まさに髙橋先生の講演内容そのものだと思います。

⑤ 学校・地域をキレイにする日

先生、PTA役員、部活の生徒、体育祭の応援団の方々で草取りを中心に頑張りました。ただこの日は、大変暑く本当に皆さん、苦勞様でした。学校がすこきれいになり嬉しかったです。これまでの、PTA活動を私なりに振り返ると、最高の仲間ができた。我が家の家庭では見られなかった姿を見る機会が多くあったと感謝しています。校長、先生方、PTA役員の皆さんの力添えがあり、なんとここまで来ることができました。本当に有難うございました。残り三ヶ月あまりですが、PTA活動を精一杯務めさせていただきますので、保護者の皆様には、これまでと変わらぬお力添えをお願い致します。



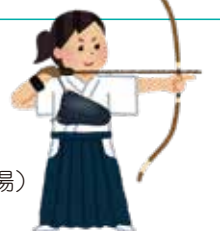


令和元年度 各務原高等学校部活動の成績

(令和元年度4月～11月 県大会ベスト8以上)

■体育系

部活動	成績内容
サッカー部	●第67回岐阜県高等学校総合体育大会 第3位 ●第98回全国高校サッカー選手権大会 岐阜県大会 準優勝
ラグビー部	●第99回全国高等学校ラグビーフットボール大会岐阜県大会 第3位
男子テニス部	●第47回岐阜県ジュニアテニス選手権大会 U17男子ダブルス 準優勝 飯沼優斗・柴田裕平 ●令和元年度岐阜県新人大会 ダブルス ベスト8 飯沼優斗・柴田裕平 男子団体 ベスト8
弓道部	●令和元年度 岐阜県高等学校総合体育大会弓道競技 男子個人 4位 桧山晃輔 (東海総体出場) 男子団体 6位 ●第38回全国高校弓道選抜大会 岐阜県予選 男子個人 3位 豊田翔大 6位 大柴翔 (東海選抜出場) 男子団体 5位
水泳部	●岐阜県春季室内選手権 男子100m個人メドレー 3位 小池隆太 男子200mメドレーリレー 6位 藤井侑一郎・米倉旺央・小池隆太・石田爽悟 ●岐阜県春季選手権 男子200mフリーリレー 7位 藤井侑一郎・奥村拓真・小池隆太・石田爽悟 ●岐阜県高等学校新人水泳大会 男子50m自由形 8位 藤井侑一郎 男子400mメドレーリレー 8位 藤井侑一郎・米倉旺央・奥村拓真・谷口優人



■文化系

部活動	成績内容
美術部	●岐阜県高等学校総合文化祭 美術工芸展 入選 古田遥菜・榊原早耶香
書道部	●2019年度岐阜県青少年美術展青年部書道部門 入選 渡邊真衣・柴田悠良 ●岐阜県高等学校総合文化祭 書道展 優秀賞 横山怜未
茶華道部	●裏千家 茶道初級 許状取得 伊部朱夏・水野リほ・青木優奈・三宅梨乃・赤堀佳音
放送部	●第54回岐阜県高等学校放送コンテスト アナウンス部門 6位入賞 廣瀬乃愛 ●第66回全国高校放送コンテストアナウンス部門 出場 廣瀬乃愛
吹奏楽部	●中部日本吹奏楽コンクール岐阜県大会 高等学校小編成の部 金賞 ●岐阜県吹奏楽コンクール岐阜県大会 高等学校B編成の部 金賞及び東海大会への県代表 ●第74回東海吹奏楽コンクール 高等学校B編成の部 銀賞 ●第25回日本管楽合奏コンテスト全国大会 高等学校A部門 優秀賞及びバンドジャーナル賞



最近の

出来事から

校長 居波 裕

今年も残り少なくなりました。皆様、いかがお過ごしでしょうか。昨年は地震が多くありましたが、今年はご存知のように、台風の被害が広範囲で甚大なものでした。とくに台風十九号やその後の豪雨により被災した地域は、いまだに復旧が完全にされておらず、住民の方々はご苦労されています。心よりお見舞い申し上げ、早い復旧を祈るばかりです。

年末になり衝撃的なニュースがふたつ入ってきました。ひとつは十月末の首里城の火災です。本校は毎年十二月に実施される修学旅行で沖縄を訪れており、首里城も訪問していました。首里城は再建されたものですが、琉球王朝の王城を訪れその歴史に触れる重要な機会でした。生徒たちは訪問できずとても残念に感じていると思います。

そして、十一月一日突然に発表された、来年度実施予定の英語の民間試験の実施延期のニュースです。今まで高校現場からも実施の不安を訴えており、大学からも実施業者からもあまり情報が提供されず心配されているなか、受験会場の地域格差や料金がとても高額であるなど問題点

も指摘されていました。にもかかわらず実施の方向で進んでおり、本校でもID登録の準備をすすめていたとまで。文部科学大臣からの突然の延期の発表があり、驚き困惑するともに、多くの高校関係者からは、来年度実施されれば大きな混乱が予想されていましたので、安堵の声が上がっています。生徒の皆さんには不安を与え、高校には戸惑いと余分な労力をかけただけでした。今、再び大学入学共通テストにおける国語、数学の記述形式の試験についても国会で議論がされています。このPTAだよりが発行されたときには、新しい方向性がでているかもしれません。

今回の英語の民間試験の実施の目的は、最近よく言われる英語の四技能「聞く(Listening)」「読む(Reading)」「話す(Speaking)」「書く(Writing)」という四つのスキルのうち、日本の英語教育は長年、「読む」「書く」能力の育成を重視してきており、「話す」「聞く」の能力育成が不十分であるという状況から議論されているものです。これについては、高校の現場で考えていかなくはならないことであると思います。

また来年度以降、AO入試や推薦入試は総合型選抜、学校推薦型選抜と名称が変わり、従来のものとは違い学力試験を導入していく方向で検討がされています。いずれにしても進学するためには、十分な学力を身につけることが、進学後も含めて重要であるということです。

そういえば、もうひとつ、急に变

更になったことがあります。東京五輪のマラソンや競歩の競技会場が突然、東京から札幌に変更になったことです。これらのように重要なことが急に変わらないう世の中になってほしいものです。

新たな 「テクノロジー時代」 へ突入

PTA副会長 澤野 悟

令和の時代が始まりました。戦争が終わり、電化製品の普及など発展した昭和。インターネット社会に突入し、豊かな情報によって便利で平和だった平成。これからわが子たちは令和をどのように作り上げ過していくのでしょうか。

八月、京都の会場で全国高等学校PTA連合大会が開かれ参加してきました。

「Kyoから！未来を拓(ひらく)」をテーマの講演では、①未来を創るために必要なもの②これから突入するテクノロジー時代においてそれを使いこなす人の正しい考え方③教育での大切なことなど高校在学中の子をもつ親として実りのある話を聞くことができました。

株式会社片岡製作所代表の片岡宏二氏は次のようなことをお話し下さいました。これからやってくる超スマー

ト社会oT(Internet of Things)は、全ての人と物がつながり新たな価値が生まれ、AI(人工知能)により必要価値が必要な時に提供される時代になると。さらにイノベーション(幅広い技術革新)により、あらゆるニーズに対応できる社会となり、ロボットや自動走行車、そして遠隔操作など技術で人の可能性がますます広がる社会になるだろうといった講演でした。

Classi株式会社の副代表、加藤啓氏はこれからの社会は、認知能力(読み書き、そろばん、IQ、英語力、体力、運動能力など)と非認知能力(点数化が困難な意欲、楽観性、忍耐力、自制心、自信、思いやり、コミュニケーションなど)がパートナー化するようになるとおっしゃっていました。そして①人間性②知識、技能③思考力、判断力、表現力、を意識した万能な人間育成の教育が必要と提唱されました。

日本を代表する企業家の日本電産株式会社、永守重信氏は、偏差値や一流というブランドだけで大学を勧めたいのが親の本音になりがちだが、本人の意思を尊重し、将来何をやりたいのか、どんな仕事に就きたいのか、進路は学校や家庭で納得いくまで話し合ってほしいと、講演されました。

こういった講演内容を踏まえ、子どもたちが社会に乗り遅れないよう、親は子どもを傍らで静かに見守っていかなくてはと思います。

令和の時代を生き抜く子どもたちが、大きく羽ばたいていくことを期待してやみません。



令和元年度

ケンモア高校姉妹校交流

姉妹校提携後三十三年目となる今年、オーストラリア・クイーンズランド州のケンモア高等学校より、七名の生徒、二名の引率の先生、そして保護者一名が、九月三十日（月）～十月七日（月）の日程で、来校しました。七名のケンモア生達は、本校のホスト生宅にホームステイし、ホスト生とともに本校の授業に参加しました。



九月三十日（月）夕方本校に到着し、オリエンテーションとホスト生との対面式が行われました。十月一日（火）の後期始業式において、歓迎式典が行われ、ケンモア生達が全校生徒に紹介されました。その後、ホスト生のクラスに入り、ともに授業に参加したり、英語や数学、書道など特別授業に参加したりしました。放課後には、弓道部の練習場にて弓を射る体験をし、教える本校の生徒達も身振り手振りを含めた英語を使って一生懸命



説明していただきました。十月三日（木）には、ケンモア生はホスト生とともに、白川郷と郡上八幡にて一日研修を行い、散策や食品サンプル作りを通して、交流を深めました。十月四日（金）はホスト生との授業や特別授業を終え、放課後、ホストファミリーのご家族の方々も参加してのお別れ会が行われました。ケンモア生には修了書が授与され、ケンモア高校への記念品贈呈が行われました。ケンモア生からは、それぞれのホスト生への感謝のこもったメッセージと記念品が渡されました。帰国前の週末は、ケンモア生はホストファミリーと過ごし、十月七日（月）に帰国の途につきました。約一週間の短い滞在でしたが、本校生徒にとっても、ケンモア生にとっても、貴重な異文化交流の機会となりました。高校時代に体験する異文化交流は、彼らのこれからの人生に大きな意味をもつことと思います。

学校・地域をキレイにする日

PTA会計 三浦 泉

十月五日（土曜日）、生徒有志、保護者有志、多くの方々参加で学校、地域をキレイにする活動が行われました。お忙しい中、有難うございました。

グラウンドの草引き、学校、通学路周辺のゴミ拾いなどを行いました。

広いグラウンドの草むしりも多くの方のおかげでキレイになりました。

通学路となる学校周辺はゴミ拾いをする事によって、より層通学の時に意識して通るようになるのではないかと思います。

毎日の清掃時間もしっかりされていると思いますが、普段出来ない所がキレイになり、終わった時「おつかれ様でした！」と声をかけあう生徒の姿に、晴れ晴れとした気持ちになりました。そして、生徒たちが一生懸命やっている姿に感動しました。



「ご協力いただいた皆さまのおかげで、「学校をキレイにする日」の活動を無事に終える事ができました。今後多くの方々の御協力をお待ちしています。

PTA講演会に参加して

PTA評議員 上河原 朋子

九月二十七日、岐阜協立大学教授・医学博士でもあり、同大学のサッカー総監督でもある高橋正紀先生の講演を聞きました。

冒頭で、先日引退した元プロ野球選手であるイチロー選手の引退会見の映像を見せていただきました。あらゆる面においてプロフェッショナルなイチローの信念は「努力は必ず報われる」とは限らない「人と比べない」「自己決定」「自分を大切に」「失敗は多い方がいい」などでした。長い選手生活の中で、当時は結果が全て、結果が出ないときにはまわりからの批判やプレッシャー、アドバイスがあつたようですが、それに惑わされることなく強い信念で自己決定をしてやってきたそうです。

自己決定するということは、決定したことに対して自己責任があるということです。ということわは、たとえ周りから見ても失敗だといわれたとしても、それが糧となって次に進めるということ。周りから「失敗した」「選択を間違えた」と言われても、それに囚われてはいけません。何事もトライアンドエラーです。今、高校生である若いうちにどんどん挑戦

して、トライアンドエラーを体験、経験していくことで大人になったときに選択肢が増え、自己決定ができるようになっていくのです。

今回の講演は、大学サッカー部の総監督なのでスポーツを通して得ることができるとお話ししていただきましたが、スポーツ精神のような、相手を敬いつつ試合をするということは、昔から日本人の心の中にあるかもしれない武士道の精神と同じだということでした。

私個人としては、人間的成長するためにもぜひスポーツをしてほしいと考えています。特に団体競技は、ひとりだけが頑張ってもチームの目標は達成することはできません。

先生曰く、目標は決して勝つことではないとのことでしたが、やはり相手に勝つことはひとつの目標です。勝てた時の喜びは、個人だけではなくチーム全体または、昨今のラグビーのように日本代表の勝利であれば国民の歓喜になります。もちろん負けた時は逆に、学ぶべきことがあり自分というものも能く見えてきます。

今後社会に出て必要とされる要素として、自己決定をしてやり抜く力（GRIIT）だそうです。そして、スポーツは非日常なので、学生ならば「日常である勉強、家族、友達などをまず大事にすること」、自らの選択肢を増やすために「第二第三の興味のあること」「好きなこと」「夢中になれるものを持つておくこと」が必要だと教わりました。というのもスポーツ人生が終わったときに、何がしたいのかが見つけられないアスリートが

二回のPTA発表を終えて

PTA評議員 佐藤 紀子

令和元年、各務原高校PTAは、六月の「東海地区高等学校PTA連合会岐阜大会」十一月の「岐阜県高等学校PTA連合会PTフォーラム大会」の二大会の発表校という当たり年でした。

東海では「協同」のPTA活動を目指して「県では『さらに協同』するPTA活動を目指して」というテーマで発表を行いました。

各務原市の紹介や、高校名は市の読み方とは違い、「かかみはら」であることなどを紹介後、本校の教育の特色や生徒たちの様子などを発表しました。部活動や生徒会活動が活発であり、「リスパクトクラブ」や「ゼ

ロスマカフエ」などを通じて、地域社会との繋がりがあること、ユネスコスクールとしての活動や海外の姉妹校との交流など、海外との繋がりがあることなどを生徒たちの生き生きとした様子の写真と共に紹介しました。PTA活動としては、ホームルーム委員によるハザードマップ作りやあいさつ運動、PTA研修（外部講師による講演会）、PTA校外研修（大学見学）、文化祭初日のカレー販売、学校・地域をキレイにする日の参加、PTAだよりやPTAカレンダーの発行など様々な活動を先生方とも協力しながら行っていることを写真とともに発表しました。

発表を通して、本校のPTA活動は、役員だけが忙しく活動するのではなく、PTA会員の皆様・先生方、そして生徒たちと共に「協同」することを大切に行っているのだと改めて認識することができました。ただ、PTA研修は、親子で聞くとよい内容を選択しており、もっと会員の方に参加していただけたらよいと思いました。

他の発表校も、地域との繋がりを大切に活動されている内容が多く、今後のPTA活動を行う上で参考になりました。

今回、二回の発表をする機会をいただき、PTA会員の一人としても本校の良さを知ることができ、二〇二一年度の創立五十周年に向け、本校をアピールすることができた良い機会となりました。今後とも、PTA活動への「ご協力をお願いします」。



まず体育祭の運営の為に準備して下さったみなさんありがとうございます。一昨年、昨年に共に競技、総合の部で優勝していた青団なので、今年こそは三冠を取ろうという目標に向かって練習がスタートしました。最初の頃は動きも揃わず、ミスを連発していました。そのたびに動きを教え合い、動画を見たりして少しずつ完成に近づけていきました。夏休みが終わって全体での練習がスタートしました。団席のみなさんは、振りついてもしっかりと覚えてくれ、皆さんの団員が団を盛り上げてくれ、援助と団席が一体になっていると実感したときは、本当に嬉しかったです。そして体育祭当日、競技での優勝はできなかったけれど最後の最後まで大接戦でした。一人一人が全力をつくしてくれたおかげです。応援では約二か月間の練習の成果を出し切りま

赤団

無冠の帝王

青団団長 森 将太

吹奏楽



書道部



カレーバザー



黄団

無敵の気威団

黄団団長 間宮大喜

三年生にとっては最後の体育祭。大成功だった。それが僕の素直な感想である。そう思うのは三年生だけではない。一・二年生のみなも自分の力を最大限に出し切ったからである。競技も応援も真剣に取り組み、楽しむところは楽しんだことによって今回の体育祭の成功に繋がったのではないだろ

青団

one for all
all for one

赤団団長 加藤 嵐

最初に体育祭の運営のために動いて下さった先生方、生徒会をはじめとする全ての方々、本当にありがとうございます。

いました。昨年一昨年、と僕たち赤団は本当に悔しい思いをしてきました。その悔しさをバネに今年は絶対三冠を取るという気持ちで応援団としての活動がはじまりました。最初は、僕達野球部が全然踊れなくて何度も何度も注意されました。何度も踊って、動画をとって、見て、教え合つての繰り返しで少しずつ演舞を覚えていきました。

そして夏休みの練習が始まりました。本当に暑くてみんなの集中力も落ちていき演舞もバラバラでしたが回数を重ねることにみんなの気持ちや一生懸命さが伝わってきて個人としても援団全体としても成長できたと思います。夏休みの練習が終わっていいよ体育祭が近づいてきました。団席の応援練習も始まりボルテージがどんどん上がっていくような気がしてすごく楽しかった。そして迎えた体育祭、競技の部の結果がどうであれ、やりきりたいという気持ちで応援が始まりました。

本番が始まっていないのに泣く人がいたり、不安な気持ちを表情に出したりしながらも、無事に演舞を終えることができました。結果はオール三位。正直すごく悔しい思いをしました。が、すごく貴重な経験ができ、人間として成長できたと思います。赤団のみなへ、応援とかすごく声がでて、頼りがいのあるバックの前で演舞ができて幸せでした。ありがとうございます。現在、赤団は間違いなく最弱です。赤団最弱伝説がはじまろうとしています。来年こそは赤団のみなを止めてくれ。お願いします。

垂れ幕部門



金賞

3-3 リトルマーメイド

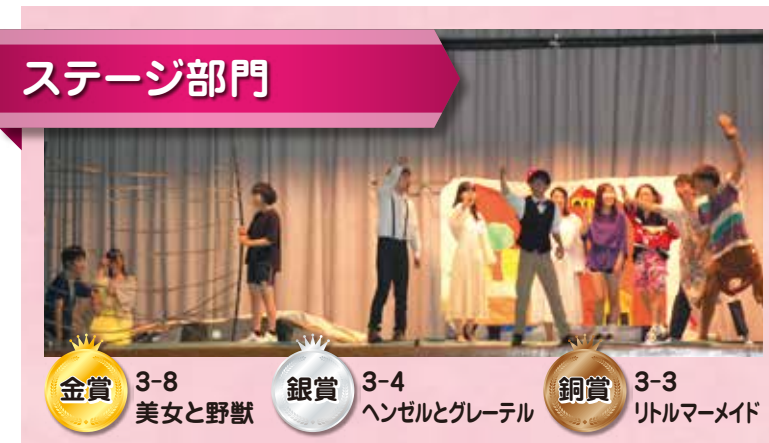
銀賞

2-4 海の世界

銅賞

3-2 今日から俺は

ステージ部門



金賞

3-8 美女と野獣

銀賞

3-4 ヘンゼルとグレーテル

銅賞

3-3 リトルマーメイド

展示部門



金賞

1-1 TOY-STORY

銀賞

2-5 VS 嵐

銅賞

2-4 海の世界